令和6年度 学校評価 自己評価書

学校名 北海道新篠津高等養護学校

1 本年度の重点目標

- 1 単元・題材指導計画を重視したカリキュラム・マネジメントの確立と授業改善
- 2 地域での体験的な学習とICT教育の調和的な充実(ハイブリッド化)
- 3 継続的な学校施設・設備並びに備品の修繕・更新要望と適切な予算計画・執行
- 4 教職員の確かな専門性に基づき、協働意識を高めるチーム学校力の向上

2 本年度の経営方針

- 1 ミドルリーダーを中心とした各部署のチーム力と相互の連携に基づく効率的・効果的な業務の推進
- 2 保護者、地域、関係機関との連携推進と信頼関係の構築
- 3 公務員としての自覚と使命に基づく、法令遵守の徹底と危機管理意識の向上
- 4 適切な予算要望・計画・執行と財務処理の管理

3 自己評価結果

自己評価の達成状況や取組の適切さについては、職員評価と保護者アンケート関連項目を併せるとともに、自由記述の内容も加えて評価する。

A(達成) B(おおむね達成) C(やや不十分) D(不十分)

分野・領域	評価項目	達成状況	取組の適切さ	検討事項・改善の方策	各アンケート関連項目
学校経営	学校教育目標を達成するという視点で、学校経営方針(教育方針、経営方針、指導の重点、経営の重点等)が設定されている。	A	A	学校教育目標を達成するという視点で、適切に学校経営方針を設定しています。	教1
	学校教育目標を達成するため、学校経営方針(教育方針、経営方針、指導の重点、経営の重点等)に沿って、教育活動を推進している。	A	A	今後も、学校教育目標の達成を目指し、教職員一丸となって教育活動に取り組んでいきます。	教2
	管理職は適材適所の人材配置や教職員の意見を取り入れた学校経営を行い、組織の力を十分に引き出そうと努めている。	B	B	管理職は教職員の能力が発揮されるよう強みの把握に努め、適材適所の人材配置に努めてまいります。	教3
	管理職は、教職員、保護者に真摯に対応し、教職員とよく対話して、適切にリーダーシップを発揮している。	A	A	管理職は教職員との対話において傾聴に努め、心理的安全性を確保し、多様性に配慮したマネジメントを実施します。	教4
	教職員は、同僚性を発揮し、互いに相談しやすい雰囲気を作ろうと努めている。	B	A	教職員同士のリスペクトを土台に、対話を活性化し、職場の心理的安全性を高めていきます。	教5
	教職員は、情報共有を基盤に他部署とも積極的に連携、協働し、チームとして学校経営に積極的に参画している。	A	A	情報共有をもとに、より協働性と高めるとともにチームの一員として積極的に学校経営に参画する意識の向上に努めます。	教6、保4
教育課程	新学習指導要領を踏まえた教育課程の改善への取り組みが進められている。	A	A	引き続き、「社会に開かれた教育課程」となるよう、各教科等の内容、単元配列などの検討を進めていきます。	教7、保4
個別の計画等	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」及び「個別の生活支援シート」は、保護者や関係機関との連携のもと策定し、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導が行われている。	A	A	保護者、関係機関との連携を密にし生徒一人一人に応じた適切な指導と必要な支援となるよう活用します。	教8、保3
授業改善	地域資源を活かした体験的な学習や実践的、社会貢献的学習、また、ICTの活用などを通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進められている。	A	A	ICT機器を活用した学びと地域での実体験からの学びをバランス良く設定し、今後も「個別最適の学び」、「協働的な学び」の充実に向けた授業改善を進めます。	教9、保4
学習指導	生徒一人一人の障がいの状態や適正を踏まえ、生活に結び付いた知識、技能、態度について实际的に指導し、生徒の生活する力を高めている。	B	A	引き続き、生活に結び付いた内容、方法で学習を進めるとともに、生徒一人一人の特性や状態に応じた指導に努めます。専門教科では、生徒に働く意欲を培い、将来の職業生活や職業自立に必要な意識、技能、態度等の指導に努めます。	教10、保1
	生徒一人一人の能力や適正に着目した指導を通して働く意欲を培い、将来の職業生活や職業自立に必要な知識、技能、態度について総合的に指導し、生徒の働く力を高めている。	A	A		教11、保2
寄宿舎指導	生徒一人一人の障がいの状態や特性に即した指導内容や方法を工夫し、基本的な生活習慣や社会性を身に付けられるよう指導が行われている。	A	A	生活習慣の確立や人間関係に関する課題解決力の向上など、将来の社会生活に向け効果的な寄宿舎生活の指導に努めます。	教12、保9

行事・余暇	生徒の実態や地域の特色など生かした学校行事や、寄宿舎の活動を実施している。	A	A	学校行事、寄宿舎活動においても、ICT活用を進め、将来の社会生活に向けて学習効果を高めています。	教13、保10
通知票等	「通知表」及び「個別の生活支援シート」は、学習内容、生徒の様子、指導の手立て及び指導の成果や課題について、保護者に分かりやすく記入されている。	B	A	家庭生活にも活用できるよう指導の成果と課題を簡潔かつ分かりやすく記載するように努めます。	教14、保5
生徒指導	生徒理解と信頼関係の構築に努め、生徒一人一人の良さや個性を生かした指導の工夫を図り、生徒が主体的に判断したり、共感的に理解し合う関係を重視した指導に努めている。	A	A	生徒の個性や障がい特性など生徒理解に努め教職員間で共有し、生徒一人一人の良さや個性を生かした指導に努めます。SNS使用に関わる危険性の理解が進むよう指導を継続します。	教15、保14
	生徒の生命・健康・安全を守るため、生徒の状況を共有し、生徒指導上の問題に適切に対処するための体制が整備され機能している。	B	B		教16、保6
健康・安全指導	自他の命や体を大切にす態度及び知識を養う指導の取組が、適切に行われている。	A	A	教職員が一人ひとりが「いじめは絶対に許さない」という姿勢を固持し、生徒が安心して学校・寄宿舎生活を送れる環境づくりに努めます。	教17、保8
	自然災害や感染症への対応など危機管理体制が整えられ、日常的な施設設備の安全点検や安全指導が、適切に行われている。	A	A	夏季の気温上昇や地震などの災害を想定し、安全点検や安全指導など、危機意識をもって当たるよう努めます。	教18、保8
進路指導	生徒一人一人が進路を主体的に選択できるような進路指導を行うとともに、進路選択に必要な情報を生徒及び保護者に対して十分に提供している。	B	B	今後も生徒による主体的な進路選択となるよう指導を充実させるとともに、選択肢が増えるように情報提供に努めます。	教19、保7
情報発信	学校の教育方針や教育活動、寄宿舎の生活などについて、地域や保護者、関係機関等に対して適切に情報発信を行っている。	A	A	今後もHPの更新に努めるとともにYouTube限定配信など、情報発信の方法を工夫します。	教20保11保13
センター的機能	教育相談や地域の小・中学校及び高等学校等への支援、地域、関係機関等との連携、協力など、特別支援教育のセンター的役割を果たしている。	A	A	地域の特別支援教育の進展のため、小・中学校等との連携を深め、センター的機能を発揮するよう努めます。	教21保14
教職員	教職員一人一人が教育公務員としての自覚を常にもち、服務規律の遵守や体罰の防止、交通違反や事故の防止に努めている。	B	B	教職員一人一人が、教育公務員として服務規律を遵守するとともに、生徒の人権を尊重する言動、振る舞いに徹します。	教22保15
	教職員は、生徒の人権を尊重し、教育公務員としてふさわしい服装や身だしなみ、節度ある行動や態度・言葉遣いなどで教育活動を行っている。	B	B	また、威圧的な態度や言葉、感情的な態度や言葉を使用せず、生徒が理解しやすい言葉で説明します。	教23保15
	業務の精選や勤務時間を意識した働き方の推進に努めている。	C	C	業務の見直しや行事の精選、会議の進め方の改善を図ることはもとより、ICT機器を活用して、業務にかかる時間を短縮させ、教職員が授業や生徒に向かうことに時間を使えるよう働き方改革を進めます。	教24
	校内外の研修を積極的に活用し、実践的指導力や専門性向上に努めている。	A	A		教25
PTA活動	保護者と教職員が連携、協力して活動を推進し、充実した活動となっている。	A	A	今後も保護者ニーズに合った活動を検討し工夫していきます。	教26保16

4 自己評価における特記事項

○教職員評価及び保護者のアンケートで同内容の項目をまとめ、それぞれの結果を基に分析し、改善の方策を検討しました。